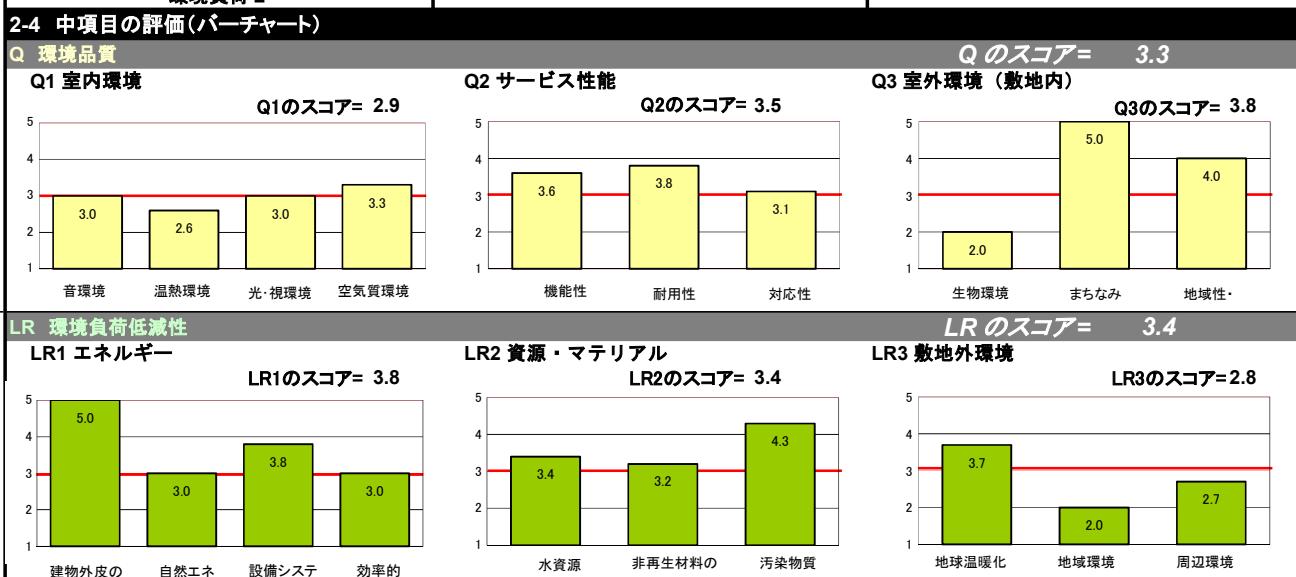
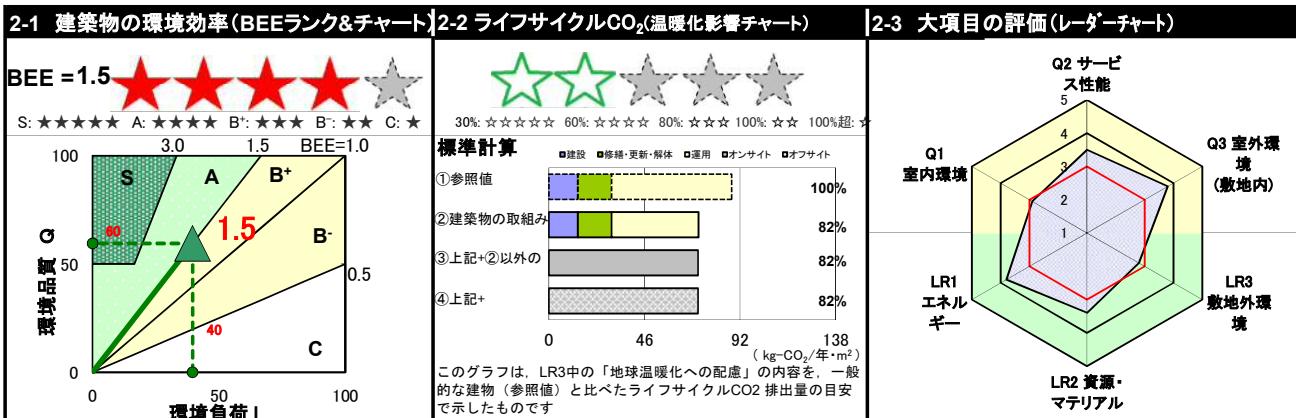


CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市新北消防署(仮称)	階数	地上3F
建設地	京都市北区大宮西脇台町17の一部	構造	SRC造
用途地域	第一種中高層、第二種中高層、防火地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2018年9月28日
敷地面積	2,888.12 m ²	作成者	株内藤建築事務所
建築面積	1,673.42 m ²	確認日	
延床面積	3,180.42 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
都市公園に隣接している立地を生かし、地域住民や公園利用者も消防署を身近に感じ取りながら、一般開放するゾーンを設け地域と連携を図る消防署と計画した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
格子ルーバー・各階約2mの軒庇を設置、高断熱材を使用し熱負荷に配慮した。	3階の執務室を南側に配置し、南側に大開口のサッシ及びテラスを設け、執務環境に配慮した。	堅格子及び軒庇を設け景観に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高断熱材や複層ガラス、軒庇や格子ルーバーを設け熱損失の軽減を図る計画とした。	雨水利用やエコマーク材料を採用し環境に配慮した。	雨水抑制水槽を約100 tを設け雨水排水不可の低減を図った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される